



## 区内一斉防災訓練(避難所運営訓練)



12月5日(土)に区内一斉防災訓練を行いました。

大井第三地区では大井第一小学校、伊藤小学校、富士見台中学校、ウェルカムセンター原・交流施設の4か所が避難場所となっておりますが、4か所すべてで開催されました。

午前10時に地震が発生したとの想定で、各避難所に地域の方々が集まりました。その後、各避難所運営会議の方々が主導となり、本部立ち上げ訓練、名簿受付訓練、物資配給訓練を行いました。そして、その他に各避難所で個別に訓練も行いました。

大井第一小学校では仮設トイレの組み立てや非常食用のアルファ化米の炊き出し訓練、伊藤小学校では防災関連のDVDの視聴、富士見台中学校では避難者を安全に誘導するための案内誘導訓練、ウェルカムセンター原・交流施設では実際の避難所の狭さを体感する避難教室体験訓練など、会場ごとに様々な訓練を実施しました。

参加者は各訓練で町会の防災組織の方々の話を真剣に聞いたり、積極的に質問するなど、防災に対する関心の高さがうかがえました。

また訓練の最後には物資配給訓練として、簡易防災グッズなどが支給されました。

当日は雲一つない晴天の下、訓練を行うことができました。しかしながら、災害はいつどのような状況で起こるか分かりません。万が一の非常災害の発生に備え、日頃から一人ひとりがいざというときに落ち着いて行動できるようにしておくことが大切です。

(事務局 記)



## 第16回中学生の主張大会

12月12日(土)スクエア荏原ひらつかホール

### 伊藤学園

伊藤学園からは、主張発表者として9年生の<sup>たけうちしょうご</sup>竹内翔吾さんが参加し、見事、優秀賞に輝きました。

竹内さんは、父親から言われた「日本は平和なのに平和じゃない。」という言葉を引きかけ、現代の日本社会について考え、「中学生から見た社会」をテーマに発表しました。

原子力発電や安全保障関連法案の問題など、様々な危機を抱える日本において、一番の危機は「中学生の価値観」であると竹内さんは語ります。恵まれ過ぎた環境での生活が、中学生にわがままな価値観を植え付けていると考え、その価値観をもったまま大人になることを不安に感じており、違った環境で生活を送るべきだと述べていました。

彼の強い思いに、会場にいた中学生だけではなく、大人も、自分にある価値観について、改めて考えさせられました。竹内さんが考えるように、将来を担う多くの子どもたちが、これからの日本に必要な価値観を身に付け、今後、より良い社会をつくってくれることを願っています。

(伊藤学園生徒会担当教諭 岸卓朗 記)



### 富士見台中学校

富士見台中学校からは9年生の<sup>みかみほのか</sup>三上穂乃果さんが出場し、奨励賞として表彰を受けました。

三上さんの主張の題名は「新しいことばかりではなく」。和食のユネスコ無形文化遺産登録をはじめ、近年諸外国で高い評価を得ている日本の伝統文化。それらに日本人である私たちはもっと関心を持ち、その素晴らしさを、伝えていくべきだということを、自身の華道・茶道部での経験を踏まえて発表してくれました。

「日本の人はもったいないねえ。」これは自国の文化を大切にしない日本人に対して、三上さんの知り合いの留学生が言った言葉です。

「もったいない」という言葉もかつて諸外国で取り上げられた日本独自の文化です。

日本人は、そうしたものも含めて、自分たちの持つ文化を学び、生かしていくことを意識しなければならない。そう考えさせてくれる発表でした。

(富士見台中学校教諭 松井淳之介 記)

